



2019年リトアニア・パネヴェジス市等 友好訪問団報告書

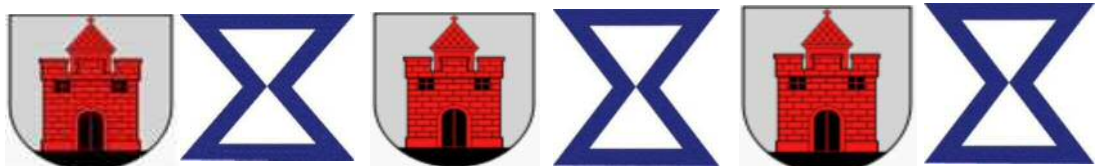
令和元年6月26日(水)～7月2日(火)

豊橋市



目 次

はじめに	団長 豊橋市長 佐原 光一	1
1. 訪問団日程		7
2. 訪問団概要		9
3. 視察報告		10
訪問を終えて	副団長 豊橋市議会議長 豊田 一雄	33
【参考資料】		
・豊橋市とパネヴェジス市間のパートナーシティ協定書		35
・豊橋市地元新聞記事		37
・パネヴェジス市ホームページ記事		38



はじめに

豊橋市長 佐原 光 一

豊橋市とリトアニア共和国の最初の交流は、2005年に開催された「愛・地球博」のフレンドシップ事業において本市がリトアニア共和国のパートナーになったことから始まりました。「愛・地球博」終了後は、もっぱら民間交流の形での交流が続けられてきましたが、2017年に、豊橋市が、東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録を目指し、在日リトアニア大使館との調整を始めたことから、豊橋市役所としての交流が再開されました。

リトアニア共和国との東京オリパラのホストタウン登録にあたり、当初目指した種目は、これまでに桜丘高校へのスポーツ留学生の実績のあったバスケットボールでした。この交渉を進める中で、絶好の機会だからと、バスケットボールで交流のあったシャウレー市との友好都市提携の話が持ち上がりました。そこで、2017年7月、ホストタウン担当メンバーで初のリトアニア共和国訪問を行い、首都ヴィルニウスでリトアニアオリンピック委員会とパラリンピック委員会やバスケットボール協会と意見交換を行う一方、シャウレー市を訪れ友好都市提携の道を探りました。しかしながら、シャウレー市との交渉はなかなか進展せず、友好都市提携は断念せざるを得ない状態にありました。



そこに、在日リトアニア共和国大使館からシャウレー市の東にあるパネヴェジス市が豊橋市との交流を望んでいるとの情報が届き、昨年6月、事前調査を兼ねてパネヴェジス市を訪問し、ミニ交流を行ったところ、同市となら末永く良い交流ができるとの確信を得ることができました。そしてその後交流に向けての調整を続けた結果、昨



年 10 月の「ええじゃないか豊橋祭り」にパネヴェジス市からの訪問団をお迎えし、友好都市提携に向けての覚書を結ぶことができました。

その後も引き続き、友好交流に係る文書、行程について事務的な調整を慎重に進め、この度の公式訪問初日に、友好都市提携を定めた書簡に署名することが決まりました。

また、この間、本市が同時に進めていた東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業に関しても、本年 4 月、リトアニア共和国から前リオデジャネイロ 2016 パラリンピックで金メダルを獲得したゴールボール選手団を迎え、2020 年の事前合宿の予行演習を行うなど、ホストタウンとしての活動に取り組み、他の種目の合宿招致を含め、本市とリトアニア共和国の信頼関係の構築が進んだものと感じています。



そして、迎えた 2019 年 6 月 26 日、リトアニア共和国パネヴェジス市に向けて、豊橋市の公式訪問団が出発しました。今回の訪問団のミッシ



ョンは、これまで実施してきた相互訪問、在東京リトアニア共和国大使館やリトアニア友の会豊橋のメンバーによる 10 年にわたる支援、そしてこの一年間根気強く続けてきた調整の成果として築くことのできた「パートナーシティ協定」の署名・締

結と、このことを通じて東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会後も継続して交流を、いっそう深めていくことを確認することになります。

今回の訪問には、豊橋市からの公式訪問団に加え、豊橋市国際交流協会からも友好親善市民訪問団が派遣され、行政のみならず多くの市民の方々による交流も展開されました。

また、パネヴェジス市訪問後は、ドイツ連邦共和国ライプチヒ市とヴ

ヴォルフスブルグ市にも訪問しました。ライプチヒ市ではこの一年体調を崩されていたアルブレヒト経済担当市長との再会を果たすと共に、世界



最高峰の研究レベルを誇るバイオ技術・医療センターを訪問し先端技術開発の取り組みに関する意見交換を、ヴォルフスブルグ市では、再来年に迫ったパートナー

シティ協定締結 10 周年に向けた意見交換を行いました。

さて、それでは本項では、今回訪問した 3 市について述べておきたいと思います。

まずはリトアニア共和国のパネヴェジス市です。

リトアニア共和国は旧ソ連領バルト三国の中で最も南にある国です。地理的には、ロシア連邦と長い国境線を挟み対峙する関係にあり（ロシア連邦にはバルト海を臨む飛び地もある）、歴史的には、中世、近世のリトアニア大公国時代から、1918 年のリトアニア共和国成立以後も含めて、長期にわたりロシア（ソ連）、ポーランド、ドイツなどに領土を翻弄された歴史があり、昨年共和国 100 周年を迎えたものの、複雑で不安定な隣国との関係を余儀なくされています。こんな背景から、現在のリトアニア共和国は、NATO の最前線基地として東西の緊張の最前線になっているものの、貿易、交通面では欧州陸路の大動脈を担う鉄道ネットワークにおいて、広軌のシベリア鉄道と標準軌のヨーロッパ鉄道の乗り継ぎポイント、すなわち結節点にあたり、東西の緊張と融合の仲介役を担う重要な位置を占める国です。リトアニア共和国の首都ヴィルニウス市はバロック様式の旧市街が世界遺産に指定さ



れる、非常に美しい都市で、豊橋市同様に路面電車（トロリーバスも）が走る、都市環境にも優れた町でもあります。

パネヴェジス市は、ヴィルニユス市から北に高速道路で一時間半ほどのところにある、人口 10 万人に満たない小さな町ですが、見渡すばかりの平原に広がる広大な農地を誇る牧畜中心の農業王国で、大きな乳製品工場も有しています。他方、小さな町には不釣り合いとも言えるほど立派な、バスケットボールのプロリーグの試合や自転車競技のヨーロッパ選手権まで開く国際規格の自転



車トラックを有する 6,000 人収容の近代的アリーナがあったり、伝統あるマリオネット専用劇場や演劇専用ホールがあったりと、スポーツと文化をこよなく大切にする町でもありました。こうした特徴と、今でも第二次大戦以前からの古

い街並みの残る穏やかな空気は、このまちの人々の優しい人柄と町の歴史に対する誇りを感じることのできる都市でありました。さらにこの町には、ICT やロボット技術においてヨーロッパで有名なカウナス工科大学のロボット学部があることは、豊橋技術科学大学を有する本市との共通性を感じることもできました。



この度のパートナーシティ協定の調印式など公式行事だけでなく、市民訪問団やパネヴェジス市民も交えた様々な交流の成功を通して、今後、豊橋市とパネヴェジス市が力を合わせ、両市だけでなく両国間の有益な交流の輪が広がっていくものと、互いに確信できたものと思います。まずは、東京 2020 オリンピック・パラリンピックとポスト・オリパラでのスポーツ、文化を中心とした交流がターゲットになると思いますが、多くの有意義なイベントに全力で取り組む所存であります。

また、今年 10 月には、早速、本市の中学生 23 人がパネヴェジス市を訪問することになっています。多感な青少年たちにとって、現地での生の生活を通して得られる様々な経験、とりわけ歴史、文化、そして日常生活の習慣に触れることは、大いに刺激となり、今後の成長にとって大きな財産になるものと思います。ぜひ、こうした機会に、国際人としての気づきを得てくれればと、彼らの頑張りに大いに期待しているところでもあります。

次に、ドイツ連邦共和国のライプチヒ市とヴォルフスブルグ市です。ライプチヒ市とは、豊橋日独協会との民間交流がご縁で、この 10 年ほ



ど、毎年のように豊橋を訪問いただいています。交流の中心にいるライプチヒ市のウテ女史と本市の榊西島には本当にお世話になっており、ライプチヒ市の進んだ国際交流戦略や世界最先端の取り組みを進めるライプチヒ動物園からは、これまで大変多くのことを学ばせていただきました。今回の訪問では、35 度を超える暑さの中、同市の文化のシンボルであるセント・トーマス教会と長年の念願であったバイオ技術・医療セ

ンターを訪問させていただきました。大学、企業、投資家を連携させ、早期に結果を出した取り組みに感銘を覚えました。

最後にヴォルフスブルグ市です。ヴォルフスブルグ市とは、フォルクスワーゲン社で繋がっています。ヴォルフスブルグ市にはフォルクスワーゲン・グループの世界本社があり、言わばその支店となる VGJ 本社が豊橋にあることから、両市の交流が始まりました。これまで美術館



学芸員、職員、調理師の相互派遣交流をはじめ、ヴォルフスブルグ市への市内中学生のホームステイ派遣や世界の青年が集う国際青年会議に

市内の高校・大学生を派遣するなど、多彩な交流を続けてきました。今回の訪問では、再来年に控えたパートナーシティ協定締結 10 周年などに向けた話し合いを行いました。モアース市長やイリス・ボーテ青少年



教育部統括部長、また日頃大変お世話になっている独日協会ブラウンシュバイク・ハイン・ヴォルフスブルグ地域のバローグ・クラウス・輝子会長を交え、両市の交流が一層市民に親しまれるよう取り組みを進めることを話し合いました。

今回の訪問は、リトアニア共和国やドイツ連邦共和国の友好都市等との信頼を深めあい、今後の交流の可能性の広がりが大いに期待されるものになりました。細かなハプニングはありましたが、関係者の皆様の温かいご支援により、全員がしっかりと自らの役割を果たすことができたと考えています。終わりにあたりまして、パネヴェジス市、ライプチヒ市そしてヴォルフスブルグ市の皆様に心から感謝申し上げます、報告の序に代えさせていただきます。本当にお世話になりました。

1. 訪問団日程

＜パネヴェジス市等豊橋市友好訪問団日程表＞

	日時		内容
1日目	6月26日 (水)	全日	出国（豊橋駅～中部国際空港 ～ヘルシンキ空港～ヴィリニュス空港） ヴィリニュス市泊
2日目	6月27日 (木)	午前	農業副大臣表敬
			パラリンピック委員会訪問
		午後	パネヴェジス市着
			パネヴェジス市長表敬
			銘板お披露目式
			パートナーシティ協定締結式
夕食会 ＊市民訪問団参加			
パネヴェジス市泊			
3日目	6月28日 (金)	午前	VYTURIO 中学校視察
			乳製品工場視察
			CIDO アリーナ視察
		午後	ガラス工房、人形劇鑑賞
パネヴェジス市泊			
4日目	6月29日 (土)	午前	パネヴェジス市内散策
			アニークシチェイ市着
			民族誌馬博物館訪問
		午後	樹木歩道散策
			鉄道博物館訪問
			パネヴェジス市着
パネヴェジス市泊			
5日目	6月30日 (日)	午前	カウナス市内視察
			杉原千畝記念館訪問
		午後	ヴィリニュス市内視察
			ヴィリニュス市泊
6日目 ～	7月1日(月) ～	午前	ヴィリニュス市内視察
7日目	7月2日(火)		出国（ヴィリニュス空港～ヘルシンキ空港 ～中部国際空港～豊橋駅）



パートナーシティ協定書（英語・日本語・リトアニア語）と協定締結記念



2. 訪問団概要

<2019年リトアニア・パネヴェジス市等友好訪問団>

豊橋市友好訪問団は、かねてより交流を深めてきたリトアニア共和国パネヴェジス市を訪問し、両市との更なる友好関係の発展を目的としたパートナーシップ協定を締結した。

また、現地中学校や CIDO アリーナなど市内各施設の視察を行うとともに、同国が東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウン相手国であることを踏まえ、事前合宿に向けて関係各署に対し誘致活動を行った。

1 派遣期間 令和元年 6 月 26 日（水）～7 月 2 日（火）

2 派遣先 リトアニア共和国パネヴェジス市
農業省
パラリンピック委員会
VYTURIO 中学校

3 派遣者	団 長	佐原	光一	豊橋市長
	副団長	豊田	一雄	豊橋市議会議員
		山田	静雄	豊橋市議会議員
		向坂	秀之	豊橋市議会議員
		沢田	都史子	豊橋市議会議員
		廣田	勉	豊橋市議会議員
		中西	光江	豊橋市議会議員
		伊藤	紀治	文化・スポーツ部長
		藤江	大光	市民協創部多文化共生・国際課長補佐
		小久保	和香	教育部学校教育課職員